

静岡県環境教育行動計画(案)パブリックコメントの結果【自由記載欄の集計表(問4)】

資料4

<集計表の主旨>

問4の自由記載欄にご意見をいただいた方について、市の考え方を示しました。

<意見の取り扱いについての分類>

- A: 計画に盛り込み済
 - B: 計画に反映する
 - C: 今後の取組の参考
 - D: 計画に反映できない
 - E: その他
- …計画に既に盛り込み済みである意見
 - …その主旨を計画に新たに反映する意見
 - …計画には反映しないが、今後の参考取組の参考とする意見
 - …検討した結果、計画には反映できない意見
 - …上記取扱い以外の意見

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A: 計画に盛り込み済	B: 計画に反映する	C: 今後の取組の参考	D: 計画に反映できない	E: その他
1	1	基本方針2「育む」	(10)誰にでもわかりやすい情報提供	環境教育全般	ふれあい健康増進館「ゆ・ら・ら」では、放任竹林対策として、門松作りや流しソーマン、竹灯籠作りなどのイベントをやっています。どこかで紹介することがあればぜひ…♪	放任竹林のイベントについては、本編P53「誰にでもわかりやすい情報提供」にあるウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」にて掲載できますので、環境創造課まで情報をお寄せいただければ幸いです。御意見を踏まえ、ウェブサイトそのものの周知や、市民の皆さんにより届けやすい情報発信について検討していきます。	○				
2	4	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	ごみの分別ぐらいいかしていませんが、私としては温暖化(地球)も気になります。ごみを分別した時、そのごみが再成されて何に生まれ変わっているのか教えてほしいです。	廃棄物や地球温暖化のテーマについては、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、様々なテーマの学習会を開催していきます。御意見の趣旨を踏まえ、取組が環境に与える効果について、学習会等で発信していきます。	○		○		
3	4	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	地球温暖化のために私達ができる小さな目標(方法)の種類を教えてください。	地球温暖化対策の啓発については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、学習会やイベントを開催していきます。その際、地球温暖化対策のために日常生活でできる取組を紹介し、皆さんの行動につながるような環境教育を行います。御意見の趣旨を踏まえ、「日常生活での行動につながるような環境教育を行う」ことを計画に追記します。		○	○		
4	7	基本方針3「つなげる」	(15)環境課題解決ビジネスの構築	環境学習イベント	クリーンエネルギーで農業などを中心に産業開発を展開、それを子どもたちが見学する。蒲原の日本軽金属の水力発電所など、自然エネルギーにより温室を作って静岡マンゴーやイチゴを育てるなど、グリーン産業を地域や企業などとのコラボで展開。それを子どもたちが学ぶ環境を整備する。できればトヨタなど、大企業とのコラボも望ましい。極力お金と人手をかけてください。	再生可能エネルギーを活用したビジネス展開については、本編P58「環境課題解決ビジネスの構築」の中で、今後進めていく予定です。企業の特徴・強みを生かした商品開発を行い、エネルギーを含めた環境問題をビジネスにより解決する仕組みづくりを検討していきます。その後、商品を用いた環境教育を行い、市民(消費者)への働きかけを行います。御意見につきましては、今後の展開の参考にさせていただきます。	○		○		
5	7	その他	市政全般	環境教育全般	企画は40以下の若手でやってください。中高年にはもはや未来がありませんので。	市役所の事務の多くは、若手、中堅、監督者がチームとなって進めています。今後とも若手職員に経験を積ませ、より活躍できる機会の創出に努めていきます。					○
6	9	計画全体	市政全般	環境教育全般	大切な郷土愛を育むのに力を入れていただきたい。	本編P21の「市民に醸成したい意識及び態度」の中で、「静岡市の豊かな自然への愛着」を育むことを記載しているところであり、計画に搭載する事業についても、御意見の趣旨を踏まえ展開していきます。	○		○		
7	11	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	保護者(大人)への教育	親に環境について学んでもらう機会を多くしてほしい。	多様な主体との連携のもと、様々な場面を活用しての環境教育を考えています。具体的には、本編P48「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」を通じた職場での環境教育の推進や、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で取り組んでいくことを考えています。また、ビジネスを通じた環境課題解決をプロジェクトとして定めていますが、例えば企業における環境に優しい商品やサービスの開発、消費者に向けた宣伝等を通して大人が環境を学べる機会へと繋げていくことも考えています。	○		○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
8	11	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	学校、幼稚園、保育所の庭などに子どもたちが生きものと触れ合える環境作りに取り組んでほしい。	校庭の樹木や学校周辺にある身近な自然を有効活用していくため、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の【静岡市環境学習指導員派遣事業】を通し、自然に詳しい指導員を派遣するなど、自然と触れ合える機会を様々な場面で創出していくことを考えています。			○		
9	11	その他	意見交換	環境教育全般	先生方と環境について意見交換できる場があるとよい。	御意見の趣旨も踏まえ、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の【教員研修】や【静岡市環境学習指導員派遣事業】の中で、組み込んでいくことを検討していきます。			○		
10	13	計画全体	説明・用語	環境教育全般	最近、横文字・英字による略語(SDGs,CSR,CSVなど)が多く、おじいちゃんおばあちゃんには読みにくい。パンフレットを2種類作成したらどうか。	わかりにくい単語については、本編P61の「用語集」に記載しています。また、極力わかりやすい表現に努めるとともに、市民向けの冊子等を作成する際は、用語の解説を入れる等の工夫を講じていきます。	○		○		
11	14	計画全体	市政全般	環境教育全般	静岡市の恵まれた環境を後世に引き継ぐのが我々大人の使命であると考えます。積極的な施策展開を期待します。	御意見にもあります「静岡市の恵まれた環境を後世に引き継いでいく」ためにも、市民の皆さんとともに環境保全活動に取り組んでいきたいと考えています。そのような活動に携わる市民を増やしていくため、「静岡型環境シチズンシップ」という意識を醸成することを通し、主体的に環境活動に取り組む人材の育成を目指し、3つの基本方針に基づき、施策に取り組んでまいります。	○				
12	16	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	静岡市といえば山から川、海までの広い市域を持っている。是非駿河湾も静岡市の一部であると認識して欲しい。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりを学ぶ様々な学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。	○		○		
13	16	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	環境教育を学校の授業と関連させてほしい。	各学校では、学習指導要領に基づき、教科や総合的な学習の時間において、環境教育を行うこととされています。これらの更なる充実に向け、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」を通し、学校と連携しながら環境教育を行っていくことを考えています。	○		○		
14	19	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	小学生に耕作放棄地や放置竹林が招く危険性や自然災害などをわかりやすく説明が聞ける学習のできる場が必要と感じます。その案の一つに放置竹林で春の筍を収穫して大人と一緒に子どもが調理して口にする事で自然環境の保全が重要であることを体験しながら学習できる学習も良いと思います。	森林や竹林、自然災害の学習については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、各種取組を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、座学だけでなく、フィールドでの体験も取り入れた、市民の皆さんがより参加しやすい学習会等も検討してまいります。	○		○		
15	21	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	幼児教育	素直に「自然っておもしろい」「自然を守りたい」と思える年代(幼児期)から学べる機会を設けてほしいと思います。子どもの強い素直な思いが大人(身近な保護者から)を動かしていくと思います。	幼児期からの環境教育については、幼稚園・保育所・認定こども園で活発に取り組まれており、アンケート調査からも9割の園が環境教育を行っていることがわかりました。御意見の趣旨も踏まえ、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」に、園の活動を支援する取組を追記します。		○	○		
16	21	計画全体	市政全般	環境教育全般	自分達の住む地域(町内)の良さを心感じると、大切にしたい気持ち、守り育みたい気持ちが培われると思います。	本編P21の「市民に醸成したい意識及び態度」としても記載しているところであり、計画に搭載する事業についても、御意見の趣旨を踏まえ展開していきます。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
17	22	計画全体	(7)様々な視点からの環境教育の充実	保護者(大人)への教育	子どもや若い人は、今は当たり前にはやらないこと、環境に悪いことを認識している、常識的なことでも年配の方は(50代以上ぐらい)知らないことが多い。「昔からやっているから大丈夫」「これくらいなら」「子どもの頃からそうだった」は、今は違うことを伝える必要がある。川にタバコを捨てること、BBQの後片付けも川で行う。「少しぐらい捨てても・・・」とボーイ捨て。違和感なく、大人が行っている行動が子ども達からすると非常識で自然破壊につながっていることに気づいてほしい。	成人に向けた環境教育については、多様な主体との連携のもと、様々な場面を活用して行っていきます。具体的には、本編P48「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」を通した職場での環境教育の推進や、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で取り組んでいくことを考えています。また、ビジネスを通した環境課題の解決をプロジェクトとして定めていますが、例えば企業における環境に優しい商品やサービスの開発、消費者に向けた宣伝等を通して大人が環境を学べる機会へと繋げていくことを考えています。	○		○		
18	23	基本方針2「育む」	(11)利用しやすい場所づくり	各種施設	科学館のような市の施設が駅前にあってもいいのではないかな。	本編P54「利用しやすい場所づくり」にもあるように、市内の様々な施設で環境教育を行っており、静岡駅南口の駅前には、静岡科学館・くまをを設置し、市で運営をしています。引き続き、このような既存の施設を活用しながら、市民が利用しやすい取組を展開していくことを考えています。			○		
19	27	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	世界、日本が温暖化により、生態系が崩れていることを明確に示した方がよい。生態系が崩れることによる健康・人命に対する被害などを判りやすく。(例えば、蚊や毒虫、寄生虫など)	様々な環境問題による影響については、本編P2「様々な環境問題の発生」の中で記載しています。御意見の趣旨を踏まえ、学習会やホームページ等を通し、市民にその現状がより伝わりやすくなるよう、内容を検討していきます。	○		○		
20	28	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	地球温暖化の原因であるCO2排出を、これからいかに抑制していくか皆が考える場があるとよいと思います。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨を踏まえ、市民の皆さんが地球温暖化を学び、考える機会を引き続き提供していきます。	○		○		
21	33	その他	パブリックコメント	その他	宛が同じ係になっている募集が2件。応募用紙に主語がない。市が聞きたい主旨を明確にして依頼すること。	両計画が差別化できるよう、冊子やリーフレットの色味等を工夫したところですが、同時期に2つの計画を改定しているため、パブリックコメントの趣旨が分かりにくくなってしまい、申し訳ございませんでした。			○		
22	34	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	幼児教育	幼少期における自然体験ほど感受性を養い、生きる力を育むものはないと思います。小学生への環境教育も重要ですが、それ以前に自然の中で育った幼児たちの感性のすばらしさはびっくりする程です。自然への実体験のある子とない子では、将来の環境に対する考え方にもおのずと差が生じるでしょう。幼少～小学生への自然体験学習の充実を願います。	幼児期からの環境教育については、幼稚園・保育所・認定こども園で活発に取り組まれており、アンケート調査からも9割の園が環境教育を行っていることがわかりました。御意見の趣旨を踏まえ、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」に、園の活動を支援する取組を追記します。		○	○		
23	34	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	教師への自然体験学習も重要だと思います。	教員への環境教育については、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の【教員研修】で、教科に応じた授業づくりの支援を行っていきます。さらに、授業にて環境教育を取り入れやすくするため、環境に詳しい人材の派遣や出前講座を行っていきます。	○		○		
24	35	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	木の特性に関する広報。例えば、木は割れても強度は変わらない。木材本来の特性を活かしたいのに、現状は高温乾燥したり、薬剤注入して不燃化したり、接着剤で貼り合わせさせたりしているのは、問題と考える。	森林の学習については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、各種取組を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、木の特性や静岡市の木材のPRなどを行うことを検討していきます。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
25	36	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	<p>・問2について、特別な学びの時間をとれないので、普段の生活の中で目にするものを増やしてほしい。</p> <p>・昨年末に使い捨てプラスチックごみと食品ロスの問題について知り、個人的にinstagramを使って「マイ容器チャレンジ」という取り組みを始めました。 https://www.instagram.com/myyoki_challenge/ 私は今30代ですが、20代30代は仕事や子育てで忙しく、モノやコトを一番消費する世代でありながら、環境について特別に学ぶ時間も余裕もあまりないのが実際のところ です。レジ袋有料化のように日常生活の中で強制的に取り組めること、又は娯楽の一部として楽しみながら学べるコンテンツが最適なのではないかと考えます。 「マイ容器チャレンジ」では、マイ容器持ち込み可能なお店や量り売りが必要な分だけ購入できるお店の紹介や、環境問題についての情報を紹介しています。 静岡市としても、ぜひ使い捨てプラスチックごみや食品ロスの削減のための取り組みとして、マイ容器持参を推進して頂けないでしょうか。 他県では、例えば岡山県真庭市や宇部市のエコイケアアウト推進事業や、京都府亀岡市の「プラごみゼロ」クーポンキャンペーンなどがあります。 <真庭市> https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/14/29044.html <宇部市> https://ubekizunameshi.com <亀岡市> https://www.city.kameoka.kyoto.jp/kankyousoumu/kurashi/puragomi.html このような取り組みを参考にして、20代30代の次世代を牽引する世代が普段の生活で気軽に取り組める施策をお願いしたいと思います。</p>	<p>本編P49「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」に記載していますが、ごみ減量推進課が企業と連携し、【プラスチックごみ削減協力店制度】、【シズオカたべきり協力店制度】等の取組を実施しています。特に、【プラスチックごみ削減協力店制度】では、マイボトルの利用促進や使い捨てプラスチックの使用禁止等に取り組んでいます。御意見の趣旨を踏まえ、計画策定後も、市民活動団体や企業の皆さんとの連携を図りつつ、より多くの皆さんの行動が引き出せるように取り組んでいきます。</p>	○		○		
26	37	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	<p>p.15(3)小中学校は、小学校の現場の実情からは、環境教育についても「あるからやる」程度だと思えます。まず、教員の意識を支えること、教員に環境の現実や未来を教育すること、関係する機関等を継続して関わる仕組みを指導することが大切だと思います。教員は毎年異なる学年を担当し、異動もあるため、その地区の環境問題を継続して見てくださる外部の方の存在は各学校で大きいと思います。</p>	<p>教員への環境教育については、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の教員研修で、教科に応じた授業づくりの支援を行っています。さらに、授業にて環境教育を取り入れやすくするため、地域の環境に詳しい人材の派遣や出前講座を行うことを考えています。</p>	○		○		
27	38	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>キャンプが趣味なので、片付け後に家族で周りのゴミ拾い等やっています。家庭からも環境教育を意識していけたらと思っています。</p>	<p>家庭内で、環境に配慮した行動に取り組み、家族で共有することも立派な環境教育ですので、今後も継続していただくと幸いです。市では、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりがりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。</p>	○		○		
28	39	基本方針2「育む」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	<p>環境学習について触れ合う機会が少ないので、子ども(学校)を通して日常的に知ったり学んだりできるといいです。</p>	<p>各学校では、学習指導要領に基づき、教科や総合的な学習の時間において、環境教育を行うこととされています。これらの更なる充実に向け、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」を通し、学校と連携しながら環境教育を行っていきます。</p>	○		○		
29	40	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	<p>小学校では、4年生から本格的にごみ問題について勉強し始めます。でも、常日頃から環境について全学年の子ども達に意識してもらう事が大事だと思います。先日、学校の図書室を利用した時に、想像以上に多くの子どもたちが図書室通いをしていて嬉しかったです。掲示物もよく見えています。司書の方と協力して「環境問題コーナー」の様なものを作ってみるのはどうでしょうか。「マイクプラスチック」の展示をする時は、司書の先生に海やそこに住む生きものたちの本を選んでもらって並べるとか・・・。</p>	<p>小学校への支援については、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」の中で、児童が楽しく学べるハンドブックの配付等を行っています。御意見の趣旨を踏まえ、児童に対しても効果的に情報発信していくため、市立図書館、学校図書室、児童館との連携を検討していきます。</p>			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
30	41	基本方針1「支える」	(1)地域における活動の支援	環境に配慮した行動	5月、つじの花壇に紙屑やペットボトル缶等が捨ててある。犬の糞などが多く、犬を野放しにしない様注意する。年に最低一度は掃除すること。	犬の糞の始末や飼い主のマナーについては動物指導センターにより注意喚起を行っています。ごみのポイ捨てについては、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、環境保全意識の向上につながる各種学習会やイベントを開催し、啓発していきます。なお、静岡市の公園は、公園愛護会等のボランティア団体に清掃していただいている所も多いことから、このような活動を積極的に周知することにより、市民の皆さんのモラル喚起にもつなげていくことを考えています。			○		
31	42	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	保護者(大人)への教育	小中学生が環境保全活動や環境学習イベントに参加するか否かは、親の意向が非常に大きいと感じる。小中学生を持つ親向けの環境学習など、理解を深めてもらう機会を増やすのも大事だと思う。	成人に向けた環境教育については、多様な主体との連携のもと、様々な場面を活用しての環境教育を考えています。具体的には、本編P48「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」を通じた職場での環境教育の推進や、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で取り組んでいくことを考えています。また、ビジネスを通じた環境課題の解決をプロジェクトとして定めています。例えば企業における環境に優しい商品やサービスの開発、消費者に向けた宣伝等を通して大人が環境を学べる機会へと繋げていくことを考えています。	○		○		
32	43	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	“環境”のことを考えられる機会を多く設定し、現状を正しく知ることから始まる。家庭で、学校で、地域で環境についてふれたり考えたりする(できる)場を設ける。そこから意識が芽生える。	学校や企業、市民活動団体、地域の皆さんとも連携し、環境教育を進めていくことで、市民が環境教育に触れることができる機会を増やしていきます。	○				
33	43	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	静岡まつりや静岡大道芸、駿府マラソンなど、大きなイベントの中に必ず環境によいことを行うことをくみ入れてはどうか・・・？	大型イベントへのブース出展など、イベントごとの性質に合わせた環境教育の手法を検討し、各主体の皆さんが参画しやすい取組を実施していきたいと考えています。			○		
34	45	計画全体	将来像	成果指標	成果指標について、補助指標(P25)に、「豊かな自然への愛着」の変化がわかる指標を追加しても良いのではないかと思います。(例えば、平成28年度の市民意識調査「静岡市の地域資源について」で「自然」と回答する市民の割合の変化など)	計画全体の成果指標としては、「力を合わせて活動している市民の割合」を掲げています。その目標達成に向けては、学習会の場を通して「豊かな自然への愛着」を促し、知識から実践へと段階を進めていくことが必要であるため、学習会の参加者数等について個別事業の指標として進捗管理していきます。			○		
35	45	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	施策の展開「育む」について、step0をstep1にするための、無関心な人に働きかける施策についても充実することを望みます。(自らイベント等に積極的に足を運ばない人へのアプローチ)	市民の関心が高いテーマ(食、健康、子育て等)と環境教育を掛け合わせることで、気軽に環境のことを学んでいただける機会を創出していくことや、日本平動物園、静岡科学館ぐるぐる、高山市民の森等の施設で楽しく過ごすことにより、環境への意識が向くようなプログラムを実施することを考えています。	○				
36	45	基本方針3「つなげる」	(14)大学生の活躍の場の創出	その他	新規プロジェクトの大学生の活躍の場の創出について、各大学ごとに具体的なプロジェクトができると面白いと思いました。	「大学生の活躍の場の創出」については、当初、大学生とともに環境学習プログラムを作成することを掲げていましたが、パブリックコメントにて様々な環境教育を求める声が多かったことから、こうした要望に応えるため、大学生とともに、環境学習会の開催や動画・教材等の作成を行い、経験やノウハウを学ぶものとして拡充します。御意見につきましては、今後のプロジェクト展開の参考にさせていただきます。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
37	45	基本方針3「つなげる」	(14)大学生の活躍の場の創出	その他	新規プロジェクトの大学生の活躍の場の創出について、フィールドで活躍したい学生はいるものの、現地までの足がない学生が多い(特に井川)ため、支援策があるとありがたいと思います。	「大学生の活躍の場の創出」については、当初、大学生とともに環境学習プログラムを作成することを掲げていましたが、パブリックコメントにて様々な環境教育を求める声が多かったことから、こうした要望に応えるため、大学生とともに、環境学習会の開催や動画・教材等の作成を行い、経験やノウハウを学ぶものとして拡充します。プロジェクトを進めていく中で、手法や大学生への支援策の充実も検討していく予定です。御意見につきましては、今後のプロジェクト展開の参考にさせていただきます。			○		
38	47	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	保育所や小学校、教育現場において、積極的に環境問題を授業や遊びの中に取り入れてほしい	各学校では、学習指導要領に基づき、教科や総合的な学習の授業において、環境教育を行うこととされています。これらの更なる充実に向け、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」を通じ、学校と連携しながら環境教育を行っていくことを考えています。	○		○		
39	48	基本方針2「育む」	(10)誰にでもわかりやすい情報提供	環境学習教材	環境問題のわかりやすくて、楽しいビデオをつくってほしいです。学校でみんなと一緒に見たいです(びえん)。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイト構築し、誰もがいつでもどこでも気軽に学べる環境を整備していきます。その中のコンテンツとして、動画を活用した情報発信に取り組む予定であり、学校で活用できるビデオ制作を検討してまいります。	○		○		
40	54	基本方針2「育む」	(10)誰にでもわかりやすい情報提供	環境学習教材	環境について、アニメで学びたい。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイト構築し、誰もがいつでもどこでも気軽に学べる環境を整備していきます。その中のコンテンツとして、動画を活用した情報発信に取り組む予定であり、アニメを含む動画の制作についても検討してまいります。	○		○		
41	57	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	さらに、積極的な環境学習の事業を展開できないでしょうか。環境に特化した、大道芸のような、国内外から人があつまる環境イベントのを提案し、多くの人々が集えるような事業の開発が望まれる。	大型イベントへのブース出展など、イベントごとの性質に合わせた環境教育の手法を検討し、各主体の皆さんが参画しやすい取組を実施していきたいと考えています。			○		
42	59	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	環境に対して無関心の層に少しでも興味を持ってもらうためには、「必要な情報へのアクセスのし易さ」が大切だと感じます。日常生活の中での、必要な情報に行きつくまでに時間がかかって、そのうちに面倒くさくなってしまうので、情報へのアクセスの「壁」が取り払えれば、興味を持ってくれる人も増えるのではないのでしょうか。個人的には、おしゃれなHPが良いと思います。あと、Instagramでの発信も効果的だと思います。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイト構築し、誰もがいつでもどこでも気軽に学べる環境を整備していきます。当サイトを知ってもらうきっかけとするため、また使いやすいものとするため、市民の皆さんが日常で使うSNSや動画の媒体を活用していくことを計画に追記します。		○	○		
43	61	基本方針2「育む」	(9)周りと次世代に伝える「伝え手」の育成	人材の派遣	街中で講座などを行うのは移動・集客などで仕方ないと思うが、その人たちが山間地まで実際に来て活動して頂ける仕組みが欲しい。地域でイベント・活動を促しても、地元の人だけではまかなえない。少しずつでも実際の土地まで足を伸ばしやすいような伝え手の育成をしてほしい。	環境教育を行う人への支援については、【静岡県環境学習指導員派遣事業】において、学習会の指導に係る交通費等を含む謝金をお支払いしています。山間地において学習会を開催される場合にも同様に御利用いただけますので、引き続き事業を進めてまいります。	○				
44	66	計画全体	将来像	成果指標	何をしていくか考えていくのも大事だが、市の目標として1つの「すること」を定めてそれを明確に実行させた方が効果があると思う。	市民の皆さんにとっては、1つの「すること」が定められている方が、取り組みやすく、実行率も高くなるのが期待できますが、私たちの環境を取り巻く問題は日々変化・複雑化しており、今後は、様々な問題に対して、臨機応変に考え、行動できる主体的な人材を育成することが求められます。本計画では、そのような主体的な人材の育成に向け取り組んでまいります。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
45	67	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	静岡市の豊かな山を活用した体験学習を積極的に実施し、静岡市の豊かでおいしい水が山で作られていることを伝えてほしい	森林や竹林、自然災害の学習については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、各種取組を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、座学だけでなく、フィールドでの体験も取り入れた、市民の皆さんがより参加しやすい学習会等も検討してまいります。	○		○		
46	71	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	小学生や中学生には、環境を守るというテーマではなく、自然を感じる遊びや実験などのイベントを用意するのがいいと思います。	森林や竹林、自然災害の学習については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、各種取組を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、座学だけでなく、フィールドでの体験も取り入れた、市民の皆さんがより参加しやすい学習会等も検討してまいります。	○		○		
47	71	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	高校生には知識がつかうような講義をした後、より高度な実験などを体験できるイベントを用意するのがいいと思いました。	高校生については、学校で学ぶだけではなく、さらにその知識を生かして研究や地域での活動等の実践へと繋げていく段階であると考えます。本編P46「高校生・大学生等が行う活動への支援」にも記載したところですが、高校生と連携したイベントの開催等、活動機会を増やす取組を考えていきます。	○		○		
48	71	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	環境ボランティアのLINEがあってもいいのかなと思います。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイトを構築し、誰もがいつでも気軽に学べる環境を整備していきます。当サイトを知ってもらうきっかけとするため、また使いやすいものとするため、市民の皆さんが日常で使うSNSや動画の媒体を活用していくことを計画に追記します。		○	○		
49	71	計画全体	市政全般	環境教育全般	ショッピングモールなど、人が集まる場所でPRするのもよい。	環境や環境問題について広く市民に周知するため、市内ショッピングモールにおいてイベント開催を行っているほか、地元のプロサッカーチームの清水エスパルスとともに、ホームゲームを中心に温暖化対策の普及啓発を行っています。今後も企業と連携し、幅広い市民の方が集まる場での周知に取り組んでいきます。	○		○		
50	72	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	私は、飲食店でバイトをしていますが、食品ロスが気になります。まず、食品ロスが出た際、バイオマスなどへの利用を飲食店側が気を付けているのか疑問です。次に、お客さんが食べきれずに残すことが多く見受けられます。静岡市の方で、飲食店の食品ロスを減らす活動の支援などをし、お店側が残さず食べきった方に何らかの特典を与えるなど、何か食品ロスを減らせるような政策があればいいと思います。	本編P49「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」に記載していますが、ごみ減量推進課が企業と連携し、【シズオカたべきり協力店制度】の取組を実施しています。御意見の趣旨も踏まえ、より多くの皆さんの協力がいただけるよう取り組んでいくことを考えています。	○		○		
51	73	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	便利な生活の裏で何が問題となるのか？を結び付けて周知していくのがよいかと思います。 ・ディスポのプラスチック→埋め立て地、ごみ処理、リサイクル問題 ・電化製品→e-waste、発電所、原発問題、水問題 ・いつでもあるコンビニ食品→フードロス、プラスチックゴミの増加 安価な服(ファストファッション)→染料による汚染、ごみ問題	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりが、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。		○	○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
52	78	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	しずも一に行った時に、竹と生ごみを混ぜて作る肥料の話を聞きました。そういう肥料を作るお店が増えれば、放任竹林問題も解決されるし、ごみも役に立ってよいと僕は思います。	本編P49「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」に記載していますが、ごみ減量推進課が企業と連携し、【シズオカたべきり協力店制度】の取組を実施しています。また、本編P50「行動につながる環境教育の充実」にあるとおり、放任竹林や、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。御意見の趣旨を踏まえ、これらの取組を組み合わせ、皆さんの学びや実践につながる環境教育を推進してまいります。	○		○		
53	79	計画全体	市政全般	環境教育全般	支える、育む、つなげる、素晴らしいです！	「静岡市の恵まれた環境を後世に引き継いでいく」ためにも、市民の皆さんとともに環境保全活動に取り組んでいきたいと考えています。そのような活動に携わる市民を増やしていくため、「静岡型環境シチズンシップ」という意識を醸成することを通し、主体的に環境活動に取り組む人材の育成を目指し、3つの基本方針に基づき、施策に取り組んでまいります。	○				
54	80	計画全体	市政全般	環境教育全般	「環境教育」は、環境だけの教育、啓発ではない。地球規模(グローバル)の経済、社会、環境すべての社会的課題を総合的に考えるものであり、持続可能な社会の構築、SDGs推進の観点からも、ますます重要なものになっていく。そのような中で、環境教育に関する市の事業費(予算)をもっとかけるべきものではないか。また、スポンサー企業の発掘や、これまで以上に様々な主体との連携、協働事業も拡大していく必要があると考える。「人が街をつくる！」そのためにも、もっと静岡市に暮らす「人」に着目して、市民の意識を高める(質を高める)、人を育てる政策や事業に重点をおいてしっかり予算をつけて取り組んでほしい。	環境教育は、全庁的な取組として、各課の役割を踏まえ、必要な予算を配分しています。引き続き、各主体のニーズを踏まえ、効果的な予算編成と取組の充実を進めてまいります。			○		
55	81	計画全体	市政全般	環境教育全般	「環境学習」は生涯を通して、いろいろな立場や状況で気にしていくことを学んでいくべきことだと思いますので、とても良い重点目標だと思います。それぞれの人の環境リテラシーの量的・質的向上を目指すためには実現されることを望みます。	「静岡市の恵まれた環境を後世に引き継いでいく」ためにも、市民の皆さんとともに環境保全活動に取り組んでいきたいと考えています。そのような活動に携わる市民を増やしていくため、「静岡型環境シチズンシップ」という意識を醸成することを通し、主体的に環境活動に取り組む人材の育成を目指し、3つの基本方針に基づき、施策に取り組んでまいります。	○				
56	81	基本方針2「育む」	(9)周りや次世代に伝える「伝え手」の育成	人材の派遣	指導者、リーダーのチョイスも大事だと思います。フラットな感覚で選定されると良いと思います。	学習会の講師や、【静岡市環境学習指導員派遣事業】における指導者の選定については、環境教育に関わる資格の有無や、過去の実績等から、最適な方を選定しています。御意見については、今後の学習会において参考にさせていただきます。			○		
57	84	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	学校では環境学習を学んでも実際に体験する事はなかなかないと思うので、実際にゴミの山を見たり流れついたゴミを見たり、海や山のゴミ拾いをしたりと授業の中で体験する事で体で体感して学習してほしいです。このように学校の授業の中でできる企画がありましたら体験型の企画をしてほしいです。体験に勝るものはないと思います。学校の授業内ですと、すべての子が体験する事ができていいと思います。イベントでやると興味がある家庭しか来ないのでぜひ学校でやって欲しいと思います。興味があるないに関わらずすべての子に体感して学んでほしいです！	体験型の学習は、知識習得の学びと比べ、五感を使って気づき、考え、理解することができ、感性や創造性を養うことが期待できます。このような体験を学校においても積極的に取り入れていくため、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の中で施設見学の受入を行うほか、本編P54「利用しやすい場所づくり」の中で環境について体験できる施設や場所を整備・活用していきたいと考えています。	○		○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
58	84	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	実際にバングラデシュのスラム街に住む子達の食事提供や学校建設などの社会活動をされている、藤原ひろのぶさんをお招きして小中学校の授業の一環として講演会を学校でやっていくのはどうでしょうか。藤原ひろのぶさんは全国で未来の地球のために講演会を開催されている方です。私達の団体のおひさまのたねでも3月に講演会を行う予定ですが、やはり興味がある人しか来ません。藤原さんのお話は実際のバングラデシュの子達のお話や映像なども含まれており、子供達にもわかりやすく響きやすいです。藤原さんのお話を聞くこのままでは地球の未来が危ない、皆で動かない！！という気持ちが生まれてきます。この講演会を聞いた子供がある所では、子供達が主体となり、講演会の企画・運営をして藤原さんの講演会を開催する予定だそうです。やはり未来を担う全ての子供にこのお話を聞いて欲しい。そう思います！お話を聞くときっと何か芽生える子もいると思います。ぜひ、学校での講演会の開催をお願いしたいです。全ての子に学んで欲しい未来の問題だと思えます。宜しくお願いします。	誰もがいつ・どこでも学べる環境を整備するため、本編P56「既存の環境関連情報の活用」にあるように、環境教育総合ウェブサイトを構築する予定です。座学で知識習得を目的とした内容であればオンライン講義を取り入れやすいため、御意見にあるように専門家や県外の講師に依頼することも検討してまいります。	○		○		
59	85	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	スマホを大いに活用したら良いと思います。ユーチューブやインスタなどを使って発信する(映える静岡市の里山や海、活動している人達の楽しい様子など)と同時に投稿してもらうことで、市民と一体となった行動がすすみあちらこちらで話題になれば自ずと環境への関心が高まると思います。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイトを構築し、誰もがいつ・どこでも気軽に学べる環境を整備していきます。当サイトを知ってもらうきっかけとするため、また使いやすいものとするため、市民の皆さんが日常で使うSNSや動画の媒体を活用していくことを計画に追記します。		○	○		
60	86	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	地域の住民、学校、企業が個別ではなく、相互に参加できる教育イベントがあれば積極的に参加したいと考えています。製造業の企業の立場としては、科学的な視点があるため、例えば政府からも話題が出てきている温暖化やエネルギーの話を提供できます。	様々な主体と連携・協働することで、各主体の専門的な視点を活用するなど、より効果的な環境教育ができると考えています。御意見の趣旨を踏まえ、P55「各主体との連携による普及啓発事業の推進」を計画に追記します。		○			
61	86	基本方針1「支える」	(6)CSR・CSVの取組の促進	環境に配慮した行動	地域特有の課題を把握することで、持続性のある都市に向けて適切な貢献をしたいと考えております。	市民や企業の皆さんが容易に情報を入手できるよう、地域特有の課題も含め、活動事例の収集・紹介や、環境活動を実践できる場の提供を考えています。	○				
62	87	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	実際に環境を守るための活動を授業の一つとして子ども達に体験させてあげたい	体験型の学習は、知識習得の学びと比べ、五感を使って気づき、考え、理解することができ、感性や創造性を養うことも期待できます。このような体験を学校においても積極的に取り入れていくため、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の中で、施設見学の受入を行うほか、本編P54「利用しやすい場所づくり」の中で、環境について体験できる施設や場所を整備・活用していきたいと考えています。	○		○		
63	89	基本方針2「育む」	(10)誰にでもわかりやすい情報提供	環境学習教材	環境について、新聞やラジオで学びたい	情報発信については、本編P53「誰にでもわかりやすい情報提供」に記載しているように、インターネットを通じた最新情報を発信していきます。御意見の趣旨も踏まえ、より市民の皆様ニーズにあった情報発信を行って行きます。また、様々な媒体で「環境」の情報が発信されるよう、マスコミに向けても積極的に情報発信していきます。	○		○		
64	89	計画全体	市政全般	環境教育全般	子どもの頃から、自分の住んでいる所をいかに住みやすい美しく整った土地にしておくか関心を持ち、1人1人が常に気を付けていく事が大切だと思います。(食事の生活習慣のように)無駄をなくす、食品ロスをなくす、そういう小さい事を1人1人が守る事で、世界の地球の環境を整えていく事が出来ると考えます。食材を大切にすることの大切さ、野菜等、作る人々の苦勞がいかにわかりかを知り、感謝することの大切さ。私は子供のころから、お米1粒も作ったお百姓さんに感謝し、無駄にはしてはいけないと父母から言われていました。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりが、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。		○	○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
65	90	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	賤機山や谷津山等、市街地に隣接した山でもたくさん学ぶこと、体験できることがあると思う。オクスズや有度山まで行かずとも、手軽に行くことができ参加できる体験を、転勤族や山が苦手な人などにも体験してほしい。放任竹林問題は、学校から見える場所でも発生していることを感じてほしい。	森林や竹林、自然災害の学習については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、各種取組を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、座学だけでなく、フィールドでの体験も取り入れた、市民の皆さんがより参加しやすい学習会等も検討してまいります。	○		○		
66	93	計画全体	市政全般	環境教育全般	静岡市環境教育行動計画を広く市民へ告知する活動が必要。各家庭の人々に告知するには、各自治体へ向いて教育・指導する事も必要。事業単位での出前授業も良いと思う。	本計画を市民の皆さんに知っていただき、市の施策に参画していただくため、計画を簡単にまとめたリーフレットを作成します。作成後は、イベント等で配布する予定です。			○		
67	94	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	環境学習というものに日頃から意欲的に取り組んでいる人以外には、そもそも情報が届いていないのではないのでしょうか。HPや講座、展示などにアクセスしたり足を運ぶ人はすでになんらかの関心を寄せている人だと思います。Tik TokやYou Tube、インスタの動画やコミック配信アプリなど、空いた時間に見るタイプでのコンテンツでは、次に何を見るか、自分で選ばなくてもオススメが表示されたりしています。自分で選択するという行動は意外とエネルギーがいるものです。隙間時間にふっと目に入るようなアプローチの仕方で、今すぐ実践できるような小さな取組を紹介する、何でもよいようなものが環境につながっているんだなと実感できる、そんな庄の少ないきっかけから興味を持ってもらえるようなハードルの低さがほしいのかなと考えます。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイト構築し、誰もがいつでも気軽に学べる環境を整備していきます。当サイトを知ってもらうきっかけとするため、また使いやすいものとするため、市民の皆さんが日常で使うSNSや動画の媒体を活用していくことを計画に追記します。		○	○		
68	98	基本方針1「支える」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	幼児教育	大学生や指導員の方々からのイベント(パネルや劇、ペープサートなど)として、地球温暖化やごみの問題を幼児期から気付けるように、視覚的にに見てわかる何かがあると今後の環境教育の入口として良いのではないかと思います。	幼児期からの環境教育については、幼稚園・保育所・認定こども園で活発に取り組まれており、アンケート調査からも9割の園が環境教育を行っていることがわかりました。御意見の趣旨も踏まえ、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」に、園の活動を支援する取組を追記します。		○	○		
69	105	計画全体	市政全般	環境教育全般	環境学習は、道徳に繋がるような気がします。家庭から幼い頃から地球の一員である事を学ぶきっかけになれば。私も学び、行動していきたいです。	本編P21の「市民に醸成したい意識及び態度」としても記載しているところであり、御意見の趣旨を踏まえ各種施策を展開していきます。	○		○		
70	108	その他	意見交換	環境教育全般	学校教育として授業を行う際、フィールドを用いて子どもに教える方法は環境教育のあり方として重要な点です。しかし、現実的に教員がフィールドを用いた学習(フィールドワーク)を行うとき、学習に適したフィールドを教員が知らないということがある。特に高校教員や小中の教員などと大学教員のつながり、フィールド(学習に最適な)の共有ができるコミュニティができると地域の自然に対応した教材ができると考えます。	御意見の趣旨も踏まえ、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」における【教員研修】や【静岡市環境学習指導員派遣事業】の中で、組み込んでいくことを検討していきます。	○		○		
71	110	基本方針2「育む」	(9)周りや次世代に伝える「伝え手」の育成	人材の派遣	環境学習会をお願いし、環境学習指導員の方にいろいろと教えていただきました。身近な自然を活用した遊びや草花について教えていただき、子どもにとって学びの多い時間でした。来年度もぜひ実施していただきたいと思いますが、回数に制限があるということで、四季を通して学ぶことも多いので、もう少し回数の幅を広げていただければと思います。	【静岡市環境学習指導員派遣事業】を御利用いただき、ありがとうございました。回数制限は、より多くの団体の皆様に本事業を御利用いただくため設定しているものです。回数の追加については、個別に相談対応させていただきます。			○		
72	112	基本方針1「支える」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	幼児教育	乳幼児期から、自然のすばらしさをしっかり教えていく、体験していくと環境を破壊しない子になると思う。たっぷり自然の中で遊べる環境を教育機関で整えていき、工夫して作る。	幼児期からの環境教育については、幼稚園・保育所・認定こども園で活発に取り組まれており、アンケート調査からも9割の園が環境教育を行っていることがわかりました。御意見の趣旨も踏まえ、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」に、園の活動を支援する取組を追記します。		○	○		
73	115	基本方針1「支える」	(4)学校で活用できる教材等の充実	環境学習教材	小学校5年生の甥が学校の宿題の一環として環境問題について調べたりしていますが、子どもでも簡単に理解できる資料的なものが少ないように思います。児童に配布できるようなわかりやすい環境問題についての読み物みたいなものがあるといいなと思います。	本編P45「学校で活用できる教材等の充実」に記載していますが、児童が楽しみながら学べるようマンガ形式の【環境学習ハンドブック】を作成・配布しています。引き続き、児童の調べ学習に役立つ冊子の作成を検討していきます。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
74	120	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	基本方針2の育むにより一層力を入れて取り組んでいただきたいと思います。自身もここに「環境大学」に参加をし、今まで知らなかったSDGsについて学び理解を深めることができました。そのおかげか、日常生活のちょっとした行動も意識的に変わっていき、環境問題をより自分事として捉える事ができました。このような講座を増やし、より多くの方に受けていただく事で環境問題が一層浸透していくのではと思います。市民の方々の意識を少しでも変えていく事が環境問題解決の一歩だと思いました。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。		○	○		
75	121	計画全体	市政全般	環境教育全般	この計画は未来に向けてとても大事なことだと思います。30年以上前に、社会教育がより広い活動を対象とする生涯学習という概念に変わってきたように、組織的な教育活動はもちろん必要ですが、環境学習といったより広い概念で主体的に学ぶことの大切さ、それをサポートする方はこれ、というように考えることが必要なのは。	本計画案では、すでに活動をされている多くの皆さんと連携し、様々な機会や場面を活用して環境教育に当たっていくことを考えています。また、個人が主体的に学べる環境を整備するため、誰でも容易に資料や情報を入手できるウェブサイトの充実も予定しています。	○				
76	125	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境学習教材	オンラインを活用し、県外の人に環境教育の講師として来ていただくのはどうか？	誰もがいつ・どこでも学べる環境を整備するため、本編P56「既存の環境関連情報の活用」にあるように、環境教育総合ウェブサイト構築を予定しています。座学で知識習得を目的とした内容であればオンライン講義を取り入れやすいため、御意見にあるように専門家や県外の講師に依頼することも検討してまいります。			○		
77	125	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	Fridays For Futureなど若者の市民運動をしている方と生徒をつなげることで、同年代からの学びを得られ、環境問題が自分ごとになるのではないかと？	御意見にもありますように、市内にはすでに環境に関する積極的な活動をしている若者がいます。こうした方々に環境教育の機会を提供し、次世代の担い手として活動する足掛かりとするため、本編P57「環境教育に意欲的な市民の活躍の場の創出」を拡充し、計画に追記します。		○	○		
78	127	基本方針2「育む」	(11)利用しやすい場所づくり	様々なテーマの普及啓発	街中にゴミ箱を置き過ぎじゃないかってくらい増やして欲しいです。容姿的に厳しいのであれば、世の中には素晴らしいデザイナーの方々がたくさんいるので、その方達に静岡市に合った風景を乱さないデザインもできると思います。またゴミの回収もそこでまた雇用を生み出せるので良いかなと考えます。	本市では、ごみを捨てやすくするのではなく、ごみとなるものを増やさないよう4Rの推進に取り組んでいます。そのため、4Rのリフューズ(断る)、リデュース(減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再生利用する)を市民へ積極的に働きかけ、ごみ減量に取り組んでいきます。				○	
79	128	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	環境問題に対する活動や取り組みを行っている地元のお店や企業のサポートや紹介などをもっとできたらいいのではないかと？	本編P56「既存の環境関連情報の活用」の中で、環境教育総合ウェブサイトを整備する予定です。その中で、環境保全活動に取り組む企業の取組を紹介していくことを検討していきます。			○		
80	129	基本方針3「つなげる」	(12)SDGsの意識づけ・推進	環境教育全般	環境教育とSDGsの関わりに期待します。	P5「持続可能な開発目標(SDGs)との関係」にも記載のとおり、本市はSDGs未来都市として積極的に取り組んでいます。また、本編P55「SDGsの意識づけと取組の推進」の中で、SDGsを交えた環境教育となるよう、引き続き努めていきます。	○		○		
81	129	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	子どもたちの環境教育に、「オクシズ」「しずまえ」を意識しながら、暮らしに身近なことから行動に結びつけるプログラムを提案。静岡市の自然環境とさまざまな産業が、衣食住に豊かに結びついていることを再発見するきっかけになると思います。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。		○	○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
82	130	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	ゴミ拾ったけどどうしても楽しさが欠けてしまい、周囲の人を巻き込むのは難しい。なので、みんなでゴミ拾いを拾ってそのゴミを使ってアートを作って展示する。その展示物と簡単な環境問題についての事を書いたポスターを貼るなどする事で、それを見た沢山の人に環境問題について関心がいくと思います！	市民の皆さんの環境に対する関心を高めるため、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、学習会や体験機会の創出を行っていきます。市民の皆さんが関心のあるアート制作やシーグラス等は、環境に関心のない若者を取り込むことに有効だと考えます。いただいた御意見は、今後の施策展開の参考とさせていただきます。			○		
83	131	基本方針1「支える」	(1)地域における活動の支援	環境に配慮した行動	にぎわいがある、静岡市の街中をきれいにする取り組みを市民の方と行う機会があれば良いと思います。朝商店街を歩いているとゴミがたくさん落ちています。街中を市民の方と綺麗にしていけば、環境について考える市民が増えると思います。	街中の清掃については、市民活動団体が企業・団体を巻き込み、清掃美化活動を定期的に行っています。引き続き、こうした市民の皆さんと協働し、清掃活動に取り組んでまいります。			○		
84	132	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	エシカルな選択についての授業→食品の生産過程の事実を教える→ファストファッションの生産過程の事実を教える ・日々の買い物「選択」が投票になるということを明確に伝えるため、食品やファッションなどのようにして生産されたのか、何を搾取しているのか(不当な雇用体制、動物実験など)、映像を使用して視覚的に教える。 ・グループワークで、生徒たちが着ている服(または制服)や、今日の給食(またはお弁当)がどの生産過程を経ているのかを調べるなど。	エシカル消費のように、自分自身で環境に配慮した商品の選択ができる力を育むことは環境教育においても重要だと考えます。いただいた御意見は、今後の施策展開の参考とさせていただきます。			○		
85	133	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	静岡市としての取り組みももちろん盛り上げてほしいが、すでに起きている環境アクションとの協力やコラボレーションがあってもいいと思う。 例えば静岡にもFridays for futureが存在しており、若者が環境のためのアクションをおこしており、学習や行動のきっかけにもなる。	御意見にもありますように、市内にはすでに環境に関する積極的な活動をしている若者がいます。こうした方々に環境教育の機会を提供し、次世代の担い手として活動する足掛かりとするため、本編P57「環境教育に意欲的な市民の活躍の場の創出」を拡充し、計画に追記します。		○	○		
86	133	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	楽しめるだけのものだけでなく、長期的に実践していけるような学習から行動まで起こせるプログラムがあったらいいと思う。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。		○	○		
87	133	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	子供向けだけでなく、その親も巻き込める様なものもあるとよい。(本来環境問題の責任のある世代だから)	各学校では、学習指導要領に基づき、教科や総合的な学習の授業において、環境教育を行うこととされています。これらの更なる充実に向け、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」を通じ、学校と連携しながら環境教育を行っていくことを考えています。	○		○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
88	136	計画全体	市政全般	環境教育全般	<p>私は京都在住の現役の高校生ですが、環境教育の重要性を日々感じています。私が取り組んでいる「気候変動・温暖化問題」は特に緊急性の高い問題であり、最近“気候危機”と呼ばれる通り、気候変動によってもたらされる影響について、現在すでに危機的状況にあると認識しています。この気候変動問題は、私の住む地域だけでなく世界各国各地域に共通した問題です。もちろん静岡市も例外ではありません。我々人類はすでに気づいています。「二酸化炭素の排出量をゼロにすれば気候危機を乗り越えられる」ことをです。しかし、そうした解決策を手にしているにも関わらず、使い方を十分に理解していないがために、命が危険にさらされる可能性があります。</p> <p>その使い方を教えることこそが「環境教育」です。その方法は様々で、学校内・地域内コミュニティの形成、特別授業・講座の設置、掲示板の活用、一定年齢層対象の催し物の企画などが市の行える環境教育としてあげられます。</p> <p>静岡市の環境教育の紹介を拝見し、とても素晴らしく感じました。計画の策定に留まらず、実際に多様な環境教育が行われており、今後の取り組みに関して大きな希望を感じました。</p>	<p>本計画に関心をお寄せいただき、ありがとうございます。今後もさらなる環境教育の充実に向け、本計画を着実に進めてまいります。</p>	○				
89	136	基本方針1「支える」	(5)高校生・大学生における環境教育の取組促進	環境教育全般	<p>しかし、現状維持では不十分です。</p> <p>現役の高校生として私が言えることは、高等学生を対象とした環境教育の充実さにかけるという点です。様々なコミュニティへの意識、行動力、社会問題への関心の向上や、高い進学率、今後の進路を決めるターニングポイントとなる“高校生”は、環境教育を行うのに最も効果的な年代だと私は考えます。にもかかわらず、環境意識や自主性を前提とした環境教育しか存在しないことは、静岡市が優秀な人材の育成の機会を十分に活用できていないことを意味します。</p> <p>私が求めるもの、それは「すべての人が環境問題について知る機会、学ぶ機会、考える機会を平等に与えられる環境」です。</p> <p>まだどの地域もこれを成し遂げているいな、静岡市は日本の環境教育への取り組みを先導していく先駆的な存在になることができると考えます。</p> <p>改正される環境行動教育計画の新たな案に、より積極的で幅広い計画が組み込まれることを求めます。</p>	<p>高校生に対しては、環境問題を理解する段階から一歩進み、主体的な環境活動を促すための取組を進めてきましたが、御意見にもありますように、進学の方岐点である高校生に対して環境学習の機会を与えることは重要であると考えます。本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の【企業と連携したプラスチックごみ削減授業】では、高校生に対し、SDGsと絡めた環境教育を行っているところであり、こうした取組を他テーマにも横展開し、高校生への教育の充実を図ります。さらに、これら施策の進展を踏まえつつ、必要に応じて計画を見直していきます。</p>	○		○		
90	136	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>気候危機は作り話でもなければ、未来の話でもありません。森についた火は消えることなく何か月もの間燃え続けます。ある国では国土の3分の1が水没し、毎年数え切れないほど気温や降水量に関する記録が更新されています。</p> <p>気候危機は私の危機であり、あなたの危機です。環境教育は、そうした問題の現状に対して、多くの人の意識を集めることができ、多くの命を救うことに繋がります。そこには自分自身も含まれます。私はこのことを十分理解したうえで、新たな計画が策定されることを願います。</p>	<p>本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。</p>		○	○		
91	137	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>私は心理学を大学で学んでいますが、今年から環境問題にも興味を持ち始めました。レジ袋有料化やスターバックスでの紙ストローなどなど日本でもエコ活動は進んではいますが、危機感を持っている人は少ないと思います。今の日常の中にエコ活動を取り入れることは困難なことではないと思います。一人一人が少しずつ取り入れることができれば大きな結果として表れるはず。身近にできることをもっと多くの人に知ってもらえたらいいなと思います。また、環境問題や気候変動などは硬く聞こえてしまうため、そうならないような工夫や、日常を大きく変化させるのではなく、地球のために少し気をつけるだけで誰もができるエコ活動を知ってもらえればいいのではないかなと思います。</p>	<p>本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。</p>		○	○		
92	138	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>静岡市で環境問題について思いを届けるマーチをする。マイボトルは水のイメージだが静岡のお茶がマイボトルで飲めて環境にも優しくお財布にも優しいことをPRする！</p>	<p>本市のお茶等の特産品と合わせて啓発活動を行うことで、市民の皆さんが環境に対する関心を高めるきっかけになると考えます。いただいた御意見は、今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
93	138	計画全体	市政全般	環境教育全般	この度はこのような機会を設けて下さり誠に有難う御座います。僕らにも出来ることを一つずつやります！！一緒に頑張りましょう！！	本計画に関心をお寄せいただき、ありがとうございます。今後さらなる環境教育の充実に向け、本計画を着実に進めてまいります。	○				
94	140	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	ニュースには本当のニュースや嘘のニュースが有り、最後は自己判断に成ってしまいますが、日本人は最後の判断の時に今まで通りの生活を基準に信じてしまいます コレでは世界は変わらない 僕は沖縄に住んでますが今年観測史上初めて1か月以上台風が来ませんでした 今大雪が自然災害に成ってます 台風の進み方も規模も大きく変わりました そーゆー体感出来る事こそ信じるべきだと思います 体感出来る事を感じる事によって本物の情報を直視出来る 直視出来る初めて生活習慣を変える事が出来る 1人1人の意識改革でしか環境問題は改善されません フェイクニュースを信じ込まない為には 自分の目に見える事 体感出来る事 コレらから目を背けない事が重要だと思います そこから話し始めるべきだと思います	体験することは、五感を使って気づき、考え、理解することができ、感性や創造性を養うことも期待できます。このような体験を学校においても積極的に取り入れていくため、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の中で、施設見学の受入を行うほか、本編P54「利用しやすい場所づくり」の中で、環境について体験できる施設や場所を整備・活用していきたいと考えています。	○		○		
95	142	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	○啓発を行うターゲット別に、打ち出し方や見せ方を変えた方がいいと思います。 新規環境教育行動計画の対象は全ての市民となっていますが、ターゲットの年代や職業に分けて見せ方を変えた方がいいと思います。計画案のドキュメントに添付されているパンフレットの写真を見ると、食いつきそうなのは「小学生」か「超真面目層」だと思います。特に若者に啓発をする上で大切だと思うのは、どれだけ「堅苦しさ」と「真面目さ」を隠し、「かっこいい」「イケてる」「楽しそう」感を出せるかが勝負だと思っています。 環境教育行動計画で行おうとしている各種施策案の内容は、かなり時代の波を読んでいてカッコいい内容だと思います。また、静岡市ではまだその潮流は来ていませんが、特に今活発な若者たちの間では、環境に取り組むことはかなり「かっこいいこと」の位置づけになっていますし、環境×ビジネスは今や憧れのトピックになりつつあります(オリエンタルラジオのあっちゃん動画でも紹介しています)。ここに、環境問題やサステナブルをカッコよく見せて、若者の視線を惹くのが上手いな、と思う団体のInstagramのアカウントを載せます。真面目そうというイメージは全くなく、カッコいい、憧れる、という見せ方をしています。 計画内容は、本当に見せ方次第でかなり多くの人を巻き込めるものだと思います。見せ方をもっとこだわればいいなと思うので、予算があるのであればこのような広告代理会社にデザインを委託するか、見せ方のコンサルティングを受けるのはかなりいいのではと思います。最近、ビジネス系の番組などに引っ張りだこで本も出版されている、三浦さんという方が代表を務める「株式会社Go」を紹介します。広告業界の最前線の会社だと思うので、ここに委託をすれば確実に多くの人を巻き込める見せ方ができるんじゃないかと思っています。ターゲットに応じて、適格な見せ方をするべきだと思います。	いただいた御意見の中で、参考になるサイトの御紹介がありました。若者目線のデザインかつシンプルに内容が伝わるものだと感じました。環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイトを構築し、誰もがいつでも気軽に学べる環境を整備していきます。堅苦しいものにならないよう、いただいた御意見の趣旨を踏まえ、見せ方を工夫するよう検討してまいります。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
96	142	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>どれだけ「耳に痛いリアルな話し」をできるかにかかっていると思います。まずは「危機」であるということ認識させるところから。</p> <p>先日静岡市が宣言をした「2050年ゼロカーボン」然り、私たちは今持続可能な社会づくりに向けて、これまでの常識が変わるレベルの変化を求められていますし、現状と目標にコミットした行動が必要であることは間違いないと思います。そして、その中には聞くだけで耳が痛くなることもたくさんあります。</p> <p>例えば、私たちが環境(気候変動)の解決に向けて出来る一番手っ取り早くて効果が大きいものは？と聞かれたら、私は真っ先に「牛肉の消費量を減らすこと」と答えます。詳しくはこちらのドキュメンタリー映画を見れば、「食肉と環境」についてのリアルが分かります。また、オリエンタルラジオの中田敦彦も、自身のユーチューブで食肉と環境をテーマに話しています。</p> <p>昨年、アマゾンの森林火災が世界中でニュースになりましたが、アマゾンでは、牛の生産量を増やすために、森が大量に伐採されています。そして、伐採の方法は「森を燃やすこと」だといえます。さらに、牛が出すゲップにはCO2の数十倍の温室効果を持つ「メタンガス」が含まれているため、私たちが牛肉を消費すればするほど、裏では牛を生産するために森林が破壊され、温室効果ガスが大量に出ているというようになります。数ある「温暖化防止のための行動」の中でも、肉の消費量を減らすことはかなり耳が痛いですし、かなり頻繁に議論が繰り広げられるトピックです。しかし、昨年小泉環境大臣がステーキを「毎日食べたい」と発言したことが国際的に大ブーイングを食らったように、食肉に関する目は世間でかなり厳しくなってきたため避けては通れないと思います。</p> <p>このようなリアルな情報をどのように伝え、「行動を変える」というところまで持っていくかを考えなければいけないと思います。先日の議会の市長答弁でもあったように、まずは「現在の環境問題は危機的状況である」と認識するところから始め、その危機を解決できるレベルの行動をどれだけ起こせるかが大切だと思います。</p>	<p>本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、御意見にもあるような世界規模の視点を交えて環境教育をすることで、環境問題が他人事ではなく、一人ひとりが取り組まなければいけないことであるという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。</p>			○		
97	142	基本方針1「支える」	(6)CSR・CSVの取組の促進	様々なテーマの普及啓発	<p>「自然と触れる」活動をもっと面白そうにできると思います</p> <p>アウトドアブランドの「パタゴニア」は、若者にも大人気のブランドです。しかし、ただデザインがカッコいいだけでなく「環境のことを最大限に配慮」しています。なので、ただ自然と触れる、というだけでなくそれをパタゴニアのような企業とタイアップして行うことによって、「自然って楽しいし、カッコいいんだ」と思わせることが出来ると思います。また、駅前にも数店舗あるソーブ・コスメブランドの「LUSH」も若者だけでなく多くの年齢層から愛されていますが、LUSHも環境のことや社会問題を伝えるメッセージ性を持った企業です。こういった、「社会に良く、なおかつカッコいい」という企業や団体を誘致して「自然について考える」という機会があれば、より深い体験を市民に提供できるのではないかと思います。</p>	<p>様々な主体と連携・協働することで、各主体の専門的な視点を活用したり、消費者からの関心の高まりなど、より効果的な環境教育ができると考えています。御意見の趣旨を踏まえ、P55「各主体との連携による普及啓発事業の推進」を計画に追記します。</p>		○	○		
98	142	基本方針3「つなげる」	(12)SDGsの意識づけ・推進	環境教育全般	<p>○総合的に社会問題に取り組むプラットフォームやセンターみたいなものを設立する環境問題だけでなく、SDGsを包括的に広めていく必要もあると思います。「社会問題を解決する」という意識は今とても高まっているのではないかと感じています。世界中の起業家が集う祭典「ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」が選ぶ、2020年の日本を代表する起業家ランキングにノミネートされた田口一成さんが代表を務める「ポーダレスジャパン」は今注目を集め、多くの人を巻き込んでいます。ポーダレス・ジャパンが掲げる目標は「社会問題をビジネスで解決する」ことで、社会問題に取り組むことがカッコいいというイメージを社会に急速に広めています。</p> <p>静岡市にも、学生や民間企業・行政が集い、協働しながら社会問題に取り組んでいけるプラットフォームを作成し、その取り組みの様子を、「これは参加したい。楽しそう」と思ってもらえるような見せ方をして人を巻き込んでいくのが有効ではないかと考えます。環境問題だけでなく、SDGs全般を広めてそれを解決していくための取り組みを行うセンターのようなものがあればいいなと思います。</p>	<p>御意見にもあります「学生や民間企業・行政が集い、協働しながら社会問題に取り組んでいく」ためには、環境面に限らず様々な課題に対して経済・社会・環境から解決を図るSDGsを進めていくことが必要だと考えます。そのため、本編P55「SDGsの意識づけ・推進」に記載した【官民連携のネットワークの構築】を進めていきます。</p>	○		○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
99	142	その他	意見交換	環境教育全般	○市役所の勉強会みたいなものを開きましょう 日本ではほとんど報道されない、環境問題のリアルを分かりやすく知れるドキュメンタリー映画はたくさんあります。それを観賞しながら自分たちの行動を見直すための市役所職員向けのワークショップを行うのはどうでしょうか？	職員の環境意識を高めるため、本編P33に記載しています【静岡市環境マネジメントシステム】により、職員への環境教育や業務における環境保全に取り組んでいるところです。いただいた御意見は、今後の施策展開の参考とさせていただきます。	○		○		
100	142	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	○サミットみたいなものを開く。ビッグゲストを呼んで、他の地域からも注目を集めるやり方を 今年2月に東京では、パタゴニアの全面協力で「全国学生気候危機サミット」というものが開かれました。参加者は環境問題に取り組んでいる、関心がある学生で、地球環境研究センターの江守さんなどが講師として登壇し、3日間の合宿のような形です。このようなサミットを静岡市主催で大々的に開催するのはどうでしょうか？市民(学生も大人も)、静岡市でSDGsに取り組む企業、静岡県外で先進的な取り組みをしている企業や団体、静岡市役所職員が参加をし、今後の環境問題を静岡市がどう解決していくか、という問いを全力で考えるサミットです。ここに、市内の学生だけでなく、都内の学生も呼び込んで、市内の学生に刺激を与えるのもいいと思います。同世代で環境問題に全力で取り組んでいる人に会おうことによって、更なる行動の変化だけでなく、県境を飛び越えたパートナーシップを構築することで、市民から環境教育を強化していくことが出来ると思います。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」に記載したように、市民の皆さんを対象としたイベントや学習会を開催していきます。いただいた御意見にありますように、他都市の方も参加でき、市内外の方が交流することが出来る機会については、今後検討してまいります。			○		
101	142	その他	市政全般	環境教育全般	○市の人たちがもっと前に出てきて欲しい。どんな気持ちでやっているのかが知りたい 啓発を行う上で、行政の方がもっと前に出てきて欲しいなと思います。計画の内容や環境問題の情報だけではなく、なぜそれをやっているのか、どういう思いを持ちながらやっているのかを話して欲しいです。人が行動を変えるには最後、心が動かなければいけないと思うので、人の心を打つ発信をして欲しいと思います。	市政出前講座や各種イベント・学習会については、市の職員が出向いて環境教育を行っています。職員の思いが伝わるような内容となるよう努力してまいります。			○		
102	142	計画全体	説明・用語	環境教育全般	○二極化→どれだけ参加しやすい場をデザインできるのか。環境保全意識：中の人たちからの生の声を集めて、どういう場なら参加しやすいかをもっと調査しましょう 環境保全活動に対する意識の二極化ですが、環境保全意識：中の人たちの中にも、中の上の意識の人と中の下意識の人がいると思います。この中の上意識の人は、「何かあと一つきっかけがあれば参加をする」という人たちだと思います。例えば友達に参加しているとか、誰かに紹介されたからというきっかけと、「初めてでも行って大丈夫」という安心感を持たせることで活発な層に取り込んでいけると思います。とにかく、どれだけ参加のハードルを落とせるかが大切だと思うので、環境保全意識：中の上あたりの人たちが、一体何が障壁なのかを調査するべきだと思います。現段階だと、「環境問題が自分の中でかなり優先順位が高い人」が「そうじゃない人」になってしまうが、実は二極化ではなく間で揺らいでいる「中間層」を含んだ三階層なのかと思っています。これは静岡市だけでなく、どの地域でも言えそうなのでディスカッションと対話を通して打開策を見つけないといけない内容だと思います。	各種イベント等の参加者に、参加した動機等を聞き取っているところであり、今後も継続して実施するなど、御指摘の分析につなげていくことを検討していきます。 また、積極的な環境保全活動への参加を促すためには、活動の機会や場について情報発信し、共有することが必要であると考えています。そのため、本編P47の【市民活動団体ポータルサイト「ここからネット」】を通じた市民活動団体の情報発信や、本編P56「既存の環境関連情報の活用」を通じた保全活動の情報発信に取り組んでまいります。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
103	142	基本方針2「育む」	(9)周りや次世代に伝える「伝え手」の育成	環境教育の方向性	<p>○どれだけ近くの人に言わせるか。その連鎖を起こせるのか→全ての人が伝え手になる</p> <p>市民意識Step0からStep3の4段階のうち、Step3の人たちがどれだけ「伝え手」になれるのか、とても大切だと思います。個人的には、全市民のうち10%でも伝え手になることが出来れば、啓発は自然に広がっていくと思います。環境問題(それだけでなく社会問題全般)に対し、最後行動が変わる時に1つ重要な要素として、「自分の友達や知り合い、近しい人がそれに取り組んでいる」ということはとても大きいです。身の回りの人間が問題に対し当事者でいるとかなり影響力がありますし、近い人間に言われた方が気持ち動きやすいと思います。なので、現在Step2あたりのかなり意識の強い人たちにフォーカスをしてコミュニティを作り、「伝え方講座」などのワークショップを開いて、Step3に進むためのスキルと教養を身に着け、さらにこのStep3の人たちによるプレゼンテーションをするイベントなどを設け、そこにStep3の人たちの友達や知人を集めて、「身近な人が環境問題のことを考え動いている」という様子を見せるのです。Step3の人たちに行政のバックアップで強クスポットライトを当てて、大きく見せていくことも大事だと思います。</p>	<p>御意見にもありますように、Step3の方を「伝え手」に育成することが、持続的な環境教育のために重要だと考えております。そのため、P52「周りや次世代に伝える『伝え手』の育成」にも記載した事業を通し、引き続き伝え手の育成に取り組んでまいります。</p>	○		○		
104	142	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>○海洋プラスチックの問題は、若い人を巻き込みやすいのいい切り口(ビーチクリーンという文化)</p> <p>今、ビーチクリーンが注目を集めています。サーフィンやシースポーツで自然を好きになった人々による海の清掃活動です。Instagramのアカウントなどでかなりかっこよく映る活動です。海洋プラスチックの問題は、比較的に環境問題を始める上で入りやすいと思います。また、静岡県はサーフィンの場所に恵まれています。海岸のゴミ拾いをしながら海辺に落ちた「シーグラス」を集め、それを一部店舗で通過として使えるようにする「ビーチマナー」の取り組みもあります。かなりキャッチーですし、色々な年齢層に参加してもらえらると思うので、フォーカスしてもいいのではと思います。</p>	<p>市民の皆さんの環境に対する関心を高めるため、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、学習会や体験機会の創出を行ってまいります。市民の皆さんが関心のあるアート制作やシーグラス等は、環境に関心のない若者を取り込むことに有効だと考えます。いただいた御意見は、今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>			○		
105	142	計画全体	将来像	成果指標	<p>★目標が低いと思います</p> <p>「静岡市の豊かな自然を次の世代に継承するために、力を合わせて活動している市民の割合」を10年間で1%増という目標は低いのではと思います。気候変動の進行状況的に、2030年までに私たちの大半が環境問題に意識を持ち、変わらなければいけないと思います。IPCCが示す温室効果ガス排出量削減の理想地は2030年までに45%温室効果ガスを減らすことです。そして静岡市も宣言したように、2050年にはゼロカーボンです。単純計算で2030年までに世の中の半分ほどの人間が、そして2050年には全ての人間が環境のことを考えながら動くようになる社会を創らなければいけません。</p> <p>それに、今確実に世の中の流れは「環境を意識した持続可能なことがグッドである」という風になっていきますし、新規環境教育行動計画案の内容を確実に実行していけば、もっと早くにたくさんの人を動かせると思います。市民・行政・民間が協働をして相乗効果的に活動をしていく仕組みがあれば、啓発活動を大きく広げていくことが出来ると思います。</p>	<p>前向きな御意見をありがとうございます。計画全体の成果指標「力を合わせて活動している市民の割合」ですが、これは、日常生活で環境に配慮した行動をするだけでなく、さらに仲間と協力して環境保全活動等に取り組むことまでを求めたものとしています。この割合は年々減少傾向であり、まずはこの数値を回復・維持することが必要だと考え、1%増という目標値に設定しました。1%を人口換算すると7,000人に相当し、このような人を7,000人増やすということは、容易に達成できるものではないと考えています。</p> <p>なお、市議会11月定例会で「2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた取組を開始する」と市長が表明したところであり、今後、その実現に向けた施策も加速させてまいります。</p> <p>その成果に併せ、令和5年度から始まる第4次静岡市総合計画を踏まえ、本計画の目標も柔軟に見直していくことを考えています。</p>			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
106	143	計画全体	市政全般	環境教育全般	<p>今や国内各所に甚大な被害を及ぼしている巨大台風、豪雨の事例は記憶に新しいところですが、今も排出され続けている温室効果ガスの増加によって、今後、このような被害等の更なる頻発化・激甚化、食糧危機までも予測されています。こうした事態は、「気候変動」ではなく、私たち人類や全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」と表現するべき事態です。</p> <p>2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されたとともに、昨年公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の1.5度特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2030年までにCO2の実質排出量を2010年比で45%削減、2050年までにCO2の実質排出量をゼロにすることが必要」とされており、日本では、あまりにもテレビで報道がない事、学校での教育がない事、また根本的な対策を行っていない事からあまりにも市民がこの非常事態について知りません。これは、目の前で家(地球)が燃えている事を知っているが何もしない(対策)事と同じです。</p> <p>静岡市では、まさにこの周知・教育に向け立ち上がるという事で、本当に嬉しく都民ではありますがご連絡させていただきました。下記を求めます。</p> <p>～意見番号107,108,109に記載のとおり～</p> <p>ご検討頂きますと幸いです。静岡市が先陣を切って日本で1番環境問題について取り組む教育を行っていただける様どうぞ宜しくお願いいたします。</p>	<p>本計画に関心をお寄せいただき、ありがとうございます。今後もさらなる環境教育の充実に向け、本計画を着実に進めてまいります。</p>	○				
107	143	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	<p>(学校教育の時間割に「環境学習」を作る)・今地球には何が起きているのか:原因(石炭に依存した社会・大量消費社会・食肉のメタンガス):世界と日本の対策の違い 生徒に何ができるのか活動や消費の選び方など。・あまりにも時間がない、事態は危機迫っているのでのケアが必要です。(気候不安と言います) 生徒のみなさんにはケアを必ず行っていただきたいです。</p>	<p>各学校では、学習指導要領に基づき、教科や総合的な学習の授業において、環境教育を行うこととされています。これらの更なる充実に向け、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」を通し、学校と連携しながら環境教育を行っていくことを考えています。</p>	○		○		
108	143	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>(学び方)・地元企業と連携しながら、ワークショップ・楽しく、面白く学べる事が重要だと思います。</p>	<p>様々な主体と連携・協働することで、各主体の専門的な視点を活用したり、消費者からの関心が高まるなど、より効果的な環境教育ができると考えています。御意見の趣旨を踏まえ、P55に「各主体との連携による普及啓発事業の推進」を計画に追記します。</p>		○	○		
109	143	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	その他	<p>(給食)・肉、牛乳、動物性の食品を使わない植物性の給食の日を儲ける。</p>	<p>環境教育では、環境問題に対する知識習得・理解促進を行うことで、各自が環境に配慮した望ましい判断ができる力を身につけることを目的としています。そのため、ヴィーガン食に限らず、各自が日常でできることを学習会等の場で周知していきます。</p>			○		
110	143	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	<p>(エネルギー)・静岡市(また県内全て)の学校の電力を「再生可能エネルギー」に変えて ※学校の電力は「太陽光や水力など自然由来の電力です」など、生徒への啓発を行う。</p>	<p>学校の電力については、清掃工場が発電した余剰電力や、家庭の太陽光発電の余剰電力を使用するなど、環境負荷の低い電力を使用しています。また、このことを児童生徒にもわかりやすく紹介するため、パネルを設置し、環境に対する意識啓発も行っています。御意見の趣旨も踏まえ、再生可能エネルギーの利用促進については、今後検討してまいります。</p>			○		
111	144	基本方針2「育む」	(9)周りや次世代に伝える「伝え手」の育成	人材の派遣	<p>指導員派遣事業に見学者として参加させていただけないでしょうか。現場に立ち合わせていただくことは、自身の知識の足りない部分を補うために、大変役立つと思います。依頼者の承認が必要ですから、すべての学習会にはいかないでしょうし、情報の公開に関する制約等もあると思いますがよろしく願います。</p>	<p>【静岡市環境学習指導員派遣事業】では、学校等の実施する環境学習会に対して、講師として指導員を派遣する事業ですが、互いの授業を見学することで、更なる指導力の向上も期待できると考えます。御意見の趣旨も踏まえ、見学制度について検討してまいります。</p>			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
112	145	基本方針1「支える」	(1)地域における活動の支援	環境に配慮した行動	我が家の隣はワンルームマンションです。4月頃、ワンルームの1部屋に2名ずつ、ネパール、ミャンマーなどの外国人留学生10名が入居しました。問題となったのは、「ごみの出し方」です。指定日以外にごみを出す、生ごみにビン、缶を入れるなどです。町内会長さんが市役所に行って、ごみ出しパンフレットを貰って来てくれポストインしてくれましたが、市役所にある外国語対応のパンフレットは、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、日本語の5か国語のみでした。現在、静岡にはアジア系の留学生が多く来ています。外国語のごみ出しパンフレットは絶対に必要です。不動産屋さん、日本語学校、市役所が連携して、よりよい外国人留学生の受け入れをしてあげられたら良いと思います。	外国語版の「ごみの出し方ガイドブック」については、現在5か国語の対応となっています。また、2019年4月から、スマートフォン専用のごみ分別アプリ「ごみナビ」を無料で配信しており、そのアプリでは英語、中国語、やさしい日本語で表示することができますので、御活用いただければと思います。外国語への翻訳等の個別相談については、収集業務課の窓口や、「静岡市多文化共生総合相談センター」(外国人住民の相談受付を行っている施設)にて対応いたしますので、御相談いただければと思います。いただいた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。			○		
113	146	基本方針2「育む」	(11)利用しやすい場所づくり	各種施設	「地球環境史ミュージアム」が、通いやすくなると嬉しいです。とても良いイベントなどを開催していますが、少し遠くてなかなか行けなくて残念です。	「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は静岡県が運営する施設ですが、御意見の趣旨も踏まえ、施設と連携した展示・学習会の開催を検討していきます。			○		
114	148	基本方針1「支える」	(1)地域における活動の支援	その他	家のすぐ近くにある長尾川や巴川、特に長尾川の土砂堆積が年々増していることに危惧を抱いております(昭和49年の七夕豪雨を経験)。温暖化による豪雨への対策は急務。県、市、住民、(専門家)一体となった災害に強い森林整備を進めてほしい。	地球温暖化対策については、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、学習会やイベントへのブース出展を通じ、啓発していきます。その際、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。また、自然災害については、関係課と連携しながら森林整備、治水対策等に取り組んでまいります。			○		
115	149	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	日本だけでなく世界全体の自然環境がどうなっているのか、他の国や地域ではどのような取り組みがなされているのか、どのような事が目指されているのかなど、多角的に、客観的に見ての教育をして欲しいです。静岡の地域で起きている環境問題に関して、ひとつの見方ではなく様々な興味を持ってどうなのか、世界基準で見てどうなのか、などを含めて教えて欲しいです。日本基準でOKならよというわけではなく地球は繋がっている、その繋がりの感覚を養いつつ身近な環境を自分たちで守っていけるよう、様々な視点を混ぜての教育が欲しいです。楽しくできるよう、現実を含みながらも今後何が各自にできるのか、希望や前向きな提案を盛り込んでもらいたいです。自然や農業などに触れ合うこと、他地域や他国の人との連携などもできたら環境のことを他人事ではなく自分ごとで考える力も養える気がします。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、御意見にもあるような世界規模の視点を交えて環境教育をすることで、環境問題が他人事ではなく、一人ひとりが取り組まなければいけないことであるという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
116	150	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>国連が定めたパリ協定の「1.5℃目標」を達成するために私たちに残された時間はあと4年だと言われています。(エミッション・ギャップ・レポートより https://www.unenvironment.org/interactive/emissions-gap-report/2019/)</p> <p>そしてあくまでこの「1.5℃以下」という目標は最低ラインであり、現在すでに1.2℃も上昇してしまっています。このままでは、若者が子育てをすること、子供が夢を持つ未来が奪われてしまいます。日本ではまだこの危機感が十分に広まっていませんが、現在実際に気候危機により生活を奪われている人が世界中にたくさんいます。私は気候危機の緊急性と現在の政府の対策のギャップを感じた時に、とてもじゃないけど今の社会に子供を産むことはできないと考えます。自分の子供を作っている場合じゃなく、今すでにこの世界に生きている子供たちの未来を守らなければ、4年後手遅れになり、学校で学ぶことも安全な生活も当たり前でない未来がきた時「私たち大人は知っていたけど、何もしなかったんだ」と伝えて彼らは納得してくれるでしょうか？所属している環境コミュニティでは、子育て中で大変な中、この問題をどうにかしたいと必死なお母さんたちが沢山います。もちろん静岡にお住まいの方、私と同じ年齢のお母さんもいます。危機を知った彼女たちは毎日、赤ちゃんを育てながら、仕事をしながら、家事をしながら、自分の子供の将来を案じ、恐れを勇気に変えて、市や自分の家族、友人に呼びかけています。このことをどうか頭の片隅に置いておいてください。環境・教育の観点で、以下が私からのご提案です。</p> <p>～意見番号117～121のとおり～</p> <p>もしこういったことが実現できる場所が今の日本にあれば、私を含め気候危機意識を持つ多くの人々が引越したくなる地域になると思います。「静岡市全公立校でヴィーガン給食を採用」「市全体で再エネを推奨」という見出しは想像するだけで日本で最先端だ、となるでしょう。政府より先に、市民一人一人の声をきき、私たちが求めているものに耳を傾けてください。それは「気候科学者の声を聞く」こと「もうすでに目の前にある最善の解決策を選び、市民を守ること」です。また、2018年、日本は大型台風など世界で2番目に気候変動の被害を受けたと言われています。(AON調べ)豪雨や台風、気温上昇は、「市」を選びません。地球に住んでいる限りこれから先どこにいても起こりうる災害です。ぜひ周りの市とも連携し、この問題に真っ先に警鐘をならす立場を取っていただきたいと思います。</p>	<p>本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりが、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。</p>		○	○		
117	150	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>子供から大人まで「気候変動」「気候正義」について明確にこの危機を学べる機会を提供したらどうか</p>	<p>本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりが、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。</p>		○	○		
118	150	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	<p>学校、公共施設を初め、一般家庭でも再生可能エネルギーへの移行を推奨する(原発の不安定さ、世界中から非難されている日本の化石燃料依存を考えると、これらは機関投資家も手を引くほどの座礁資産であるとされています。再エネは値段もどんどん下がっており、電力を切り替えない理由は一つもありません)</p>	<p>学校、公共施設の電力については、清掃工場で発電した余剰電力や、家庭の太陽光発電の余剰電力を使用する等、環境負荷の低い電力を使用しています。一般家庭については、再生可能エネルギー設備の導入を推奨する普及啓発を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、設備導入の支援等については今後検討してまいります。</p>			○		
119	150	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境学習教材	<p>学校に気候科学者や環境活動家を招き、一番気候変動の影響をうける子供たちに事実を伝えること</p>	<p>誰もがいつ・どこでも学べる環境を整備するため、本編P56「既存の環境関連情報の活用」にあるように、環境教育総合ウェブサイトを構築する予定です。座学で知識習得を目的とした内容であればオンライン講義を取り入れやすいため、御意見にあるように専門家や県外の講師に依頼することも検討してまいります。</p>			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
120	150	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	その他	学校給食に選択肢を設けること。(CO2の約20倍の温室効果ガスを発生させるメタンを吐き出す牛肉の消費は特に環境負荷が高いです。また健康面でも、牛乳、肉、卵などは、アメリカの栄養士会によって人体にとって有害なものであると発表されました。カナダの「人が生きるために必要な栄養」からは、肉卵乳製品は排除されています)。環境問題を真剣に考えた時、菜食中心の食事(プラントベース・ダイエツト)に移行することはとても影響力のある行動です。子供に倫理を教える上でもヴィーガニズム、我々が行う「種差別」を一緒に教えるべきだと思います。海外の学校では学食に「ヴィーガンメニュー」を提供しているところもあり、環境と食の繋がりについて若者を初め子供たちの意識も大きく変わっています。もちろん、多くの日本人がまだこの関連性に気付いていないのも事実であり、既成概念を振り払うのは難しいことかもしれませんが、「今まで食べていた普通の給食」の他に「ヴィーガン給食」が選べることによって、人々の意識は変わると思います。そこには「なぜ？」が生まれ、子供は大人に質問するでしょう、そうすれば子供から無関心だった大人にも伝わり、常識が変わっていくのではないのでしょうか？	環境教育では、環境問題に対する知識習得・理解促進を行うことで、各自が環境に配慮した望ましい判断ができる力を身につけることを目的としています。そのため、ヴィーガン食に限らず、各自が日常でできることを学習会等の場で周知していきます。			○		
121	150	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	危機を目の前にしている私たちであっても、きちんと問題に目を向け、対策を取れば、今までにない形の希望ある未来が待っているということを伝える。(「〜ができなくなる」という負担意識ではなく、今までとは全く違った価値観でモノを産み出し、再生し、社会全体をよくすることができる。)	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりや、廃棄物、地球温暖化等の様々なテーマについての学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。御意見の趣旨も踏まえ、日常での実践につながるような取組の紹介を追記します。		○	○		
122	151	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	環境の絵本を学校や児童館に置く 『買い物は投票なんだ』藤原ひろのぶ Amazon.co.jp: 買い物は投票なんだ: 藤原ひろのぶ, ほう(法生): 本	小学校への支援については、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」の中で、児童が楽しく学べるハンドブックの配付等を行っています。御意見の趣旨も踏まえ、児童に対しても効果的に情報発信していくため、市立図書館、学校図書室、児童館との連携を検討していきます。			○		
123	151	基本方針3「つなげる」	(12)SDGsの意識づけ・推進	環境教育全般	サステイナブルをテーマにした文化祭のようなものを開催する	サステイナブルをテーマとしたイベントについては、本編P55「SDGsの意識づけ・推進」に記載したように、SDGsの普及啓発に取り組んでいるところです。今後は、SDGsを通じた市民同士の連携が図られる取組を進めてまいります。	○		○		
124	151	基本方針2「育む」	(10)誰にでもわかりやすい情報提供	環境学習教材	子ども用のアニメを作成する	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイトを構築し、誰もがいつ・どこでも気軽に学べる環境を整備していきます。その中のコンテンツとして、動画を活用した情報発信に取り組む予定であり、アニメを含めた動画の制作についても検討してまいります。			○		
125	151	基本方針1「支える」	(3)環境教育を取り入れた授業づくりの支援	学校教育	学校のお昼の時間に、毎日環境問題の内容を放送する	各学校では、学習指導要領に基づき、教科や総合的な学習の授業において、環境教育を行うこととされています。これらの更なる充実に向け、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」や、本編P45「学校で活用できる教材等の充実」を通じ、学校と連携しながら環境教育を行っていくことを考えています。	○		○		
126	151	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	児童館や老人ホームで、環境問題についてのお話会・ご飯会を開催する	本編P50「行動につながる環境教育の充実」に記載したように、幼児期から高齢者までの年齢に対応した形でイベントや学習会を開催していきます。いただいた御意見は、今後の施策展開の参考とさせていただきます。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
127	151	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	自治会の公民館からの広報で、お昼や5時の鐘のように「今日も環境に優しくしてくれてありがとう」と毎日流す	環境問題への理解を進め、行動に移すことが必要だと考えていることから、本編P50「行動につながる環境教育の充実」に記載したように、多様な年齢層に向けた学習会・イベントの開催により啓発を進めてまいります。			○		
128	151	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境学習教材	「身近に起きる環境の変化から考える気候危機」みたいな勉強会などを無料でzoom配信する。特に子どもと一緒にお母さんお父さんが参加できる土日祝日などに行政が行う	誰もがいつ・どこでも学べる環境を整備するため、本編P56「既存の環境関連情報の活用」にあるように、環境教育総合ウェブサイトを構築する予定です。座学で知識習得を目的とした内容であればオンライン講義を取り入れやすいため、御意見にあるように親子で参加できる勉強会を検討してまいります。			○		
129	152	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境学習教材	地方都市の弱みの一つに高等教育機関の数の少なさや教育水準が上げられると思います。その結果、大都市圏と比較して、リカレント教育の機会が十分に提供されていません。環境分野に関しても例外ではなく、大学等がもっと積極的に学習機会を提供するべきだと思います。その際、インターネット上に講義ビデオを載せたり、自習できる学習教材を載せたりするなど、いつでも、誰でも、どこでも学べる機会が保証されている“まち”を目指して、行政に取り組んでほしいと思います。また、こうした提供については、企業の社会参加の一環として費用負担をお願いするのも、一つの手法として検討してほしいと思います。	誰もがいつ・どこでも学べる環境を整備するため、本編P56「既存の環境関連情報の活用」にあるように、環境教育総合ウェブサイトを構築する予定です。その際、市内の大学と連携し、教材の作成に取り組むことを検討してまいります。			○		
130	154	計画全体	市政全般	環境教育全般	このような取組を知らなかったのもっとPRしてほしい	本計画を市民の皆さんに知っていただき、市の施策に参画していただくため、計画を簡単にまとめたりリーフレットを作成します。作成後は、イベント等で配布する予定です。			○		
131	155	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	保護者(大人)への教育	多くの親は子どもにいろいろな体験や教育をさせたいと思っていると思います。子どもに環境に対する興味を持ってもらうためには親世代への働きかけ方が重要だと思うので、どのような発信方法が有効か検討していただき実施していただければ子どもの環境への興味が芽生えるのではないのでしょうか。	成人に向けた環境教育については、多様な主体との連携のもと、様々な場面を活用して行っていきます。具体的には、本編P48「企業におけるCSR・CSVの取組の促進」を通じた職場での環境教育の推進や、本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で取り組んでいくことを考えています。また、ビジネスを通じた環境課題の解決をプロジェクトとして定めていますが、例えば企業における環境に優しい商品やサービスの開発、消費者に向けた宣伝等を通して大人が環境を学べる機会へと繋げていくことを考えています。	○		○		
132	156	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	「環境問題」と聞くと、どうしても一歩引いた目で見てしまいます。環境情報の分散化によって、環境に関する情報に触れる機会自体を増やせば、今以上に身近に環境問題と感じることができるようになると思いますので、こういった取組に賛成します。	本編P56「既存の環境関連情報の活用」にも記載するように、ウェブサイトの充実やSNSの活用検討など、積極的な情報発信に努めてまいります。また、本編P58「環境課題解決ビジネスの構築」では、ビジネスを通じた環境課題の解決をプロジェクトとして定めていますが、例えば企業における環境に優しい商品やサービスの開発・販売、消費者に向けた宣伝等により環境に関する情報に触れる機会を増やすことにつなげていきたいと考えています。	○				
133	157	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	様々なテーマの普及啓発	市内にある防災センターのように、体験型学習の方が世代を問わず幅広い市民に興味を持っていただけると思うので、こうしたプランや施設設置の計画があればと思います(財源が大変ですけど)。一例として川崎市にあるフクワクアクア(入江崎水処理センター)は、VRも活用したとてもおもしろい施設でした。	体験型の学習は、知識習得の学びと比べ、五感を使って気づき、考え、理解することができ、感性や創造性を養うことが期待できます。このような体験を学校においても積極的に取り入れていくため、本編P44「環境教育を取り入れた学習への支援」の中で施設見学の受入を行うほか、本編P54「利用しやすい場所づくり」の中で、環境について体験できる施設や場所を整備・活用していきたいと考えています。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
134	158	基本方針3「つなげる」	(13)既存の環境関連情報の活用	環境教育全般	これからの静岡市を担う小中学生への環境教育が重要と考えます。子ども向けの動画をSNS等で効果的に発信することにより、子ども達が身近に環境に興味や関心を持つきっかけになると思います。また、環境教育に関連する情報を集約して発信する魅力的なウェブサイトがあると興味を持った子が実際に行ってみて体験するといった行動につながると思います。	環境に関する情報については、本編P56「既存の環境関連情報の活用」に記載しているように、環境教育総合ウェブサイトを構築し、誰もがいつでも気軽に学べる環境を整備していきます。当サイトを知ってもらうきっかけとするため、また使いやすいものとするため、市民の皆さんが日常で使うSNSや動画の媒体を活用していくことを計画に追記します。		○	○		
135	160	基本方針2「育む」	(7)様々な視点からの環境教育の充実	環境に配慮した行動	環境問題について耳にする機会は多くあると思いますが、自分の身近な問題として認識するのが少し難しいのかなと思いました。実際にどのような事態になってしまうのか、自分の行動がどのような結果を引き起こすのかをしっかりと知る事のできる機会があれば環境問題を他人事ではなく自分事として考えることができるようになるのかなと思いました。	本編P50「行動につながる環境教育の充実」の中で、山から海までの繋がりを学ぶ様々な学習会を開催していきます。その際、市民の関心が高いテーマ(食、子育て等)を交えて環境教育をすることで、私たちが環境に支えられているという気づきにつなげ、さらに、日常で取り組める事例を紹介することで、意識から行動へと結びつけていきます。	○				
							60	25	117	1	1